

未来に残したい、四万十の風景

..... ❖



四万十町四万十川流域重要文化的景観フォトコンテスト年間部門受賞作品より



四万十町上岡に架かる向山橋（上岡沈下橋）

1 | 2 | 3
4 | 5 | 6
7 | 8 | 9

1. 文化財保護審議会長賞〈5月〉「新緑の頃」
2. 文化財保護審議会長賞〈6月〉「霧立つめがね橋」
3. 四万十町長賞〈5月〉「田作りの頃」
4. 大賞〈6月〉「雨上がりの沈下橋」
5. 大賞〈5月〉「一斗俵沈下橋の鯉」
6. 四万十町長賞〈6月〉「初夏の田畑」
7. 教育長賞〈5月〉「夕暮れ」
8. 教育長賞〈6月〉「田に吹く風」
9. 四万十町長賞〈7月〉「四万十川と釣舟」

受賞者紹介

大 賞	藤戸 博
四万十町長賞	山辺 福美
四万十町教育長賞	安光 一喬
四万十町文化財保護審議会長賞	毛利 寿行

最

後の清流としてその名を全国に知られている「四万十川」。全長196キロに及ぶその流れは、稲作をはじめとする農業や、アユやウナギなどの川漁など、この四万十の地で暮らしてきた先人たちや今を暮らすわたしたちの生活に大きな恵みをもたらしてくれています。また、先人たちが守り抜いてきた自然豊かなその姿と高い水質は、「四万十川」というブランドをつくりあげ、本町で生産される農作物をはじめ、畜産物や様々な加工品などにも、「四万十川」や「四万十」という名称が多く使われるなど、四万十川流域の地域に大きな価値を与えてくれています。わたしたちの暮らしに大いなる恵みをもたらしてくれる四万十の大自然。しかしそれは、人の手によって守り抜かれてきたからこそあるものとも言えます。今の子どもや孫たち、そして100年後を生きるまだ生まれてもない子どもたちにも、この全国に誇る「たからもの」を、わたしたちには受け継いでいく使命があるのではないのでしょうか。今月の特集では、未来に残したい四万十の風景や、四万十川流域の自然とそこにある暮らしを守り続けていく取り組みを紹介します。